

## 超正統派ユダヤ教徒、路上で抗議運動

2010年6月22日 アシェル・イントレーター

木曜日の午後(6月17日)エルサレムでは10万人、テル・アビブ(ブネイ・ブラク)では5万人のハレディム(超正統派ユダヤ教徒)が驚くべき動員数と力を見せつけ路上抗議を行いました。イスラエルの最高裁判所は、「インヌエム」という入植地にある宗教的な学校がセファルディ系(注)の生徒に対して人種差別的であるという判決を下しました。その学校と保護者らがその違反を是正することを拒否した時、彼らに対し法廷侮辱罪が言い渡されました。保護者らは14日間の禁固刑に処せられるため出頭を命じられ、禁固刑は木曜日に始まります。

注: 事の発端はアシュケナジ系の保護者が自分の子をセファルディ系の子と共学させたくないという抗議でした。アシュケナジ系ユダヤ人は主に東ヨーロッパやロシアにかつて暮らしていたユダヤ人で、言葉はヘブライ語とドイツ語を合わせたイディッシュ語を話す人が多い。一方セファルディ系は地中海沿岸、中東、北アフリカに住むユダヤ人でラディノ語(最近ではジュデズモ語とも呼ばれる)を話すため、アシュケナジ系とセファルディ系とは文化がまったく異なります。また、両方の学校のカリキュラムも相当異なるようで、共学は難しい様子です。(セファルディ系の宗教学校のカリキュラムはより一般の学校に近く、アシュケナジ系のカリキュラムは宗教的な内容がほとんどであるという事です。)

超正統派ユダヤ教徒は彼らに対する最高裁判所の司法権に反対してきました。彼らは実際にこの学校の保護者らが「自分たちの信仰」ゆえに刑務所に入れられる機会を、喜びを持って反応したのです。超正統派ユダヤ教徒は最上の黒の礼装を身につけ、「私が油注いだ者に触れるな」や「主のための殉教者」や「トーラーの書こそ我が権威である。最高裁判所ではない」といったプラカードを掲げて路上に出ました。

超正統派ユダヤ教徒の言うトーラーの書とは、聖書やモーセの律法を指すのではなく、彼ら自身のラビ的権威を指します。このような最高裁判所と超正統派ユダヤ教徒との衝突は宗教派と世俗派の分離の中で最大のものを表しています。あるヘブライ語新聞は、これを「ユダ」と「イスラエル」との内戦であると述べています。[宗教派は「ユダヤ」や「ユダヤ主義」という言葉により同一化し、イスラエル国家の市民としてのアイデンティティーを強調しません。世俗派はまったくその反対です。]

この抗議運動の超正統派ユダヤ教徒の主張は宗教と国家との関係において異様な、そして嘆かわしい背徳を現しています。イエシュア(イエス)の時代に超正統派ユダヤ教徒が主にされた質問を思い起こします。「あなたはカイザルに税金を納めますか。」その質問に対しイエシュアはこう答えました。「それなら、カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。」(マタイ 22:21)

イスラエル一般市民の主流は過激な無神論の快樂・世俗主義を一方に、そしてもう一方は過激な律法主義的・操作的な宗教派に挟まれています。興味深いことに、過激な世俗と過激な宗教派は、基本的に彼らの世界観は両方とも「反シオニスト」であることです。

---

2010年ティックーン・アメリカ会議

2010年6月22日 トロイ・ワラス

ティックーン・アメリカ会議は年1回メシアニックジューと異邦人信者を集め、イスラエルと世界中のキリストの体の指導者から霊的な分与を可能にするものです。今年、私たちはダン・ジャスター、アシェル・イントレーター、エイタン・シシコフ、ポール・ウィルバー、そしてジャック・ヘイフォードやその他の指導者から話を聞く機会がありました。

集会が進むにつれ、私たちが「偉大で、非常に恐ろしい日」(ヨエル 2 章)に近づくにつれ、今「季節の変わり目」にあることが明らかになってきました。ダン是指導者らに意識的に契約的献身が強い共同体を作るように励ましました。将来、共同的な信仰と愛が私たちを支えるようになるからです。エイタンは過去の失敗や落胆があったとしても、落胆を振り落とし、強く信仰に立つようにと勧めました。ポールは、時代は暗くなりつつありますが、クウェートやドバイのようなイスラム教国であっても主の光は世界中で輝き続けていると励ましました。アシェルは、私たちが生きている現在、人々や諸国の行いによって人々の邪悪な行為や社会の混乱が新しい段階に入り、多くの預言が成就していくのを見て、その現実私たちに心が目覚めるようにと祈りました(注)。ジャック・ヘイフォードは、個人として、あるいは共同体として、自分たちの理想とするものよりは低いように見える方向に主が導いておられるというシナリオであったとしても、主に従うというビジョンを分かち合いました。

注:この箇所は、次の英文の意訳です。that our hearts would be awakened to the “Biblical proportions” of lines being crossed in the current geopolitical climate.リバイブ・イスラエルのスタッフからこの文の意味を確認した上で、意訳しています。「Biblical proportions」は、スタッフによると「聖書に預言されているように、人々の邪悪な行為や社会の混乱に関して新しい段階に入っている状態」を指すようです。

私たちが集まり、その時議題に上がってきた別のテーマは、関係と歴史の価値を振り返る重要性でした。長年にわたり、今回のティックーン・アメリカの集会において初めてアメリカのキリストの体に対してアシェル、ダン、エイタン、そしてポールと一緒に分かち合う時を持ったのです。これら4人はティックーン・インターナショナルの道筋を継続して決め、彼らの関係は30年近くになります。各人は個人的なことと宣教活動の歴史について貴重な時間を取って分かち合いました。「イエスのあかしは預言の霊です。」(黙示録 19:10)であることを皆で覚えましょう。

雲とマナ

2010年6月22日 エディ・サントロ

**神の超自然的な導きと供給は、私たちの人生の中で約束の地へと導き入れる助けとなります。**

今月のトーラーの書の箇所(注)は、民数記でイスラエルの民が荒野を旅しているところです。自然な方法では、彼らの状況は不可能ですが、彼らの旅が成功したのは、自然ではなく超自然に頼ったからです。

注:メシアニック・Congregationでは、他のユダヤ教のシナゴグと同様、1年間52週をかけ、安息日ごとに決まったトーラーと、それに対応するハフトラー(預言や詩篇、歴史書)の箇所を読みます。メシアニック・Congregationでは、トーラー、ハフトラーに加え、ブリット・ハダシャ(新約聖書)の箇所もトーラーの箇所に合わせて読みます。

彼らの前に、昼間は大いなる雲の柱、夜は火の柱が立っていました。その中に神のご臨在がありました。その雲が動いた時、イスラエルはついて行きました。旅は40年かかりましたが、主の臨在により、尽きることのない愛に満たされ、それが彼らを目的地へと導いたのです。そして、彼らを導いたその同じ神が彼らのすべての必要を満たすのです。彼らのサンダルはすり減らず、岩から水があふれ出て、天からマナが降ってくるのです。

数日前、祈りの中で主は新約の信者である私たちの状況は大昔のイスラエルのように示して下さいました。私たちにも「約束の地」があり、そこに向かって旅をしていますが、どうやってそこに行けばよいのか分かりません。そしてイスラエルのように、神が私たちに与えた大いなる召命を達成させるため、私たちが実際に所有するものでそれを行うにはあまりにも足りないのです。

しかしイエシュアにおいて、私たちもまた導いてくれる「雲」があるのです。神の霊は私たちの心に最終目的地だけを示されたのではなく、そこに至る各人の一步一步を忠実に導いて下さるのです。自然において私たちは弱く欠けていますが、主の力が私たちの必要をすべて満たして下さいます。主はご自身のいのちを私たちの中に注いで下さったので、すべてのことを行うことができるのです。